

# 秋田の動物園 60年にあたり

園長 小松 守

今年、秋田に動物園ができてから60年目の節目の年にあたります。8月8日には動物園で秋田県と秋田市がいつしよになって、これをお祝いしました。

秋田の動物園の歴史は昭和25年(1950年)8月1日、秋田市中心部のお城跡、千秋公園に秋田県が児童会館の付属施設としてつくったことが始まりです。戦後間もないころ、食べるものや着るものが不自由な暗い時代、「子どもたちに光明を」と始められた事業でした。開設時、児童文化博覧会が催されたり、移動動物園で秋田に初めてゾウがやって来るなど、秋田の動物園は賑やかにスタートしました。色あせた当時の写真に、今と変わらぬ子どもたちの笑顔を見つけたとき、動物園が忘れてはならない大切なものを見つけた思いでした。

3年後の昭和28年には秋田市に引き継がれ、秋田の動物園

園は市民に支え続けられて60年の時を重ねてきました。しだいに動物の数が増えるなどして手狭になった児童動物園は、昭和48年、市南西部に位置する大森山に移転し、現在の大森山動物園ができたのでした。

動物園の役割は時代とともに多様化し、社会の求めは多岐にわたるようになりました。しかし、60年前の歴史をひもとくと、時が移っても大切にしなければならないものがあることに気づかされました。それは秋田の動物園の原点にある、子どもたちの笑顔です。そこに「平和」と「幸せ」という二つの言葉が見えてきます。今、秋田の動物園は未来に向け新たな道を模索し始めていますが、子どもたちが笑顔になれる動物園であり続けるという道標だけは決して見失うことがないようにしたいものです。

## >>> CONTENTS >>>

### 02~11 特集「秋田の動物園60年」

#### 12 今年生まれの赤ちゃん他

#### 13 移動動物・展示場リニューアル・飼育日誌から

#### 14~15 飼育レポート・動物病院から

#### 16 かたばた通信

### 【飼育動物数】平成22年8月末現在

類	種数	点数
哺乳類	51	284
鳥類	43	174
は虫類	11	28
両生類	2	7
魚類	4	29
合計	111	522



### 【表紙写真】ニホンイヌワシ [タカ目/タカ科]

国内最大の猛禽類です。留鳥で北海道、本州に分布しています。山岳の岩棚や大木の上に大きな巣をつくり、翼を広げた大きさ(翼開長)はメスで2メートルを超えます。オスはメスより一回り体が小さくなっています。

食性は哺乳類(ノウサギ、テン、キツネなど)、鳥類(ヤマドリ、キジなど)、は虫類(アオダイショウ、シマヘビなど)。野生下での絶滅が危惧され、環境省は保護増殖事業対象種に指定しています。国内の生息個体数は400~500程度と推定されます。

当園では、独自のローテーション育雛法により三羽のヒナを同時に育てるなど、イヌワシの種の保存のために力を入れています。

## あゆみ 60年間の歴史

### 秋田の動物園年表

【変遷】 A-有料入園者数(名) B-無料入園者数(名) C-入園料収入(円) D-飼育動物数(種・点) E-敷地面積(m<sup>2</sup>) F-職員数(うち飼育担当)(名) G-その他

年号	主な出来事	変遷
昭和25年(1950)	●秋田県議会で動物園予算を議決 ●8月1日 ・千秋公園内に「県立児童会館付属児童動物園」開園 ・児童文化博覧会開催、インドソウのインディアが秋田に来る	A-入園料無料 B-資料なし C-入園料無料 D-資料なし E-4,000円 F-4名(資料なし)
昭和28年(1953)	●4月1日 ・秋田市に移管「秋田市児童動物園」と改称	A-131,735名 B-資料なし C-資料なし D-資料なし E-4,000円 F-5名(資料なし) G-入園料改定
昭和29年(1954)	●メリーゴーランド新設 ●アシカ池新設およびアシカ購入 ●日本動物園水族館協会に加入	A-132,299名 B-資料なし C-資料なし D-資料なし E-4,000円 F-5名(資料なし)
昭和31年(1956)	●ライオン導入	A-183,830名、B-資料なし C-1,677,275円、D-57種145点 E-9,900円、F-5名(資料なし)
昭和33年(1958)	●お猿の電車登場	A-177,869名、B-資料なし C-2,045,750円、D-41種144点 E-9,900円、F-5名(うち飼育2名)
昭和37年(1962)	●サルが脱出、管理人夫人にかみつく	A-174,758名、B-資料なし C-2,515,470円、D-51種151点 E-9,900円、F-4名(3名)、G-入園料改定
昭和38年(1963)	●福岡市動植物公園との動物交換でアライグマ導入	A-178,440名、B-資料なし C-資料なし、D-51種151点 E-9,900円、F-4名(3名)
昭和42年(1967)	●恩賜上野動物園よりインドニシキヘビ寄贈される	A-181,306名、B-資料なし C-2,570,725円、D-59種183点 E-9,900円、F-5名(4名)
昭和45年(1970)	●ライオン脱出、射殺 ●「大森山少年の家」オープン ●動物園予定地前に国鉄から機関車寄贈	A-142,905名 B-資料なし C-資料なし D-67種205点 E-9,900円 F-5名(4名)
昭和47年(1972)	●5月5日(子どもの日) ・子ども入園料無料に	A-129,538名、B-資料なし C-1,858,045円、D-69種207点 E-9,900円、F-9名(7名)
昭和48年(1973)	●アシカの「チビ」が人気 ●8月15日~16日 ・大森山へ移転 ●9月1日 ・「秋田市大森山動物園」として開園	A-68,097名、B-資料なし C-966,080円、D-69種187点 E-9,900円、F-資料なし(資料なし) 以上8月末まで A-126,897名、B-資料なし C-9,874,625円、D-101種333点 E-88,400円、F-14名(7名) G-入園料改定、以上9月から
昭和50年(1975)	●園内に遊園地オープン ●動物園夏まつり開催 ●第1回サマースクール開催 ●ライオンズクラブから野外ステージ寄贈	A-208,495名 B-資料なし C-15,019,610円 D-92種382点 E-92,400円 F-14名(9名)
昭和52年(1977)	●ダチョウ、ツル導入 ●第1回写生大会開催	A-241,738名、B-4,700名 C-18,324,890円、D-113種518点 E-92,400円、F-16名(11名)
昭和55年(1980)	●パカ導入	A-227,175名、B-資料なし C-17,610,025円、D-115種523点 E-92,400円、F-15名(10名)
昭和56年(1981)	●サル山オープン	A-208,985名、B-資料なし C-入園料収入32,342,950円 D-115種523点、E-92,400円 F-16名(12名)、G-入園料改定
昭和57年(1982)	●中国の蘭州より親善動物フタコブラクダが贈られる	A-231,483名、B-13,955名 C-36,059,430円、D-112種520点 E-94,400円、F-16名(12名)
昭和60年(1985)	●ふれあい教室スタート	A-169,680名、B-15,205名 C-26,827,300円、D-110種489点 E-94,400円、F-17名(12名)
昭和63年(1988)	●コモンマーモセット導入	A-175,558名、B-85,313名 C-28,358,680円、D-111種481点 E-126,800円、F-21名(13名)

年号	主な出来事	変遷
平成2年(1990)	●アフリカゾウ「だいすけ」[「花子」]導入 ●大森山動物園情報誌「コミュニケーション」発行開始	A-182,102名 B-77,773名 C-29,599,780円 D-113種493点 E-126,800円 F-22名(14名)
平成3年(1991)	●キリン導入 ●ゾウ、キリン公開 ●冬の観察会スタート	A-257,010名 B-95,733名 C-84,769,180円 D-114種519点 E-126,800円 F-22名(15名) G-入園料改定
平成4年(1992)	●フライングケージ開設	A-182,727名、B-79,234名 C-61,269,360円、D-114種516点 E-126,800円、F-22名(15名)
平成5年(1993)	●夜の動物園スタート ●大森山動物園20周年記念式典 ●インコ舎開設	A-194,504名 B-88,345名 C-95,970,760円 D-112種557点 E-129,240円 F-23名(15名)
平成9年(1997)	●ふれあいランドオープン ●子ども無料、大人料金は500円に ●レッサーパンダ、カピバラ導入	A-123,362名 B-106,182名 C-60,954,700円 D-117種519点 E-136,840円 F-24名(17名) G-入園料改定
平成14年(2002)	●チンパンジーの森オープン ●年間パスポート(年間利用券、1,200円)販売開始 ●ボランティアガイド「たいようの会」発足 ●義足のキリン「たいよう」死去、さよなら会開催	A-119,536名 B-118,323名 C-62,301,300円 D-120種542点 E-136,840円 F-31名(21名)
平成15年(2003)	●猛獣舎王者の森オープン ●ロゴマーク決定 ●大森山動物園30周年 ●初めてのイヌワシのヒナ「空」誕生 ●ガーデンボランティア発足 ●「大森山少年の家」7月末で閉所	A-138,469名 B-145,636名 C-72,815,100円 D-125種556点 E-136,840円 F-31名(21名)
平成17年(2005)	●まんまタイム開始 ●大森山動物園条例施行	A-119,717名、B-126,086名 C-64,197,100円、D-140種686点 E-136,840円、F-33名(23名)
平成18年(2006)	●愛称を「ミルヴェ」と決定 ●エサやり体験(販売)開始	A-118,576名、B-127,051名 C-63,445,700円、D-138種617点 E-150,070円、F-34名(24名)
平成19年(2007)	●ミルヴェ館オープン ●軽食コーナー「森のこまち」オープン ●大森山遊園地閉鎖 ●日経トレンディ誌の「全国動物園」[「ビックリ度」格付け]で第4位に	A-114,802名 B-127,805名 C-61,982,600円 D-121種516点 E-150,070円 F-41名(29名)
平成20年(2008)	●森のびょういんオープン ●アムールトラ繁殖「アルル」「ミルル」 ●遊園地「アノバ」オープン	A-126,568名 B-128,864名 C-67,769,200円 D-116種514点 E-150,070円 F-40名(28名)
平成21年(2009)	●アソヴェの森オープン ●(社)日本動物園水族館協会総会を秋田市で開催、総裁の秋篠宮殿下が大森山動物園を視察	A-144,305名 B-164,021名 C-77,662,700円 D-113種506点 E-150,070円 F-41名(29名)
平成22年(2010)	●秋田の動物園60年	